



NO.1425

7月30日号

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二一四四五八
F四三二一四四五七

憲法12条：この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によつて、これを保持しなければならない。

オホーツク振興局交渉

地域の問題解決に向けて

7月19日、日本共産党北見地区議員団は、北海道オホーツク振興局と交渉を行いました。
この交渉は8月22日に行う日本共産党議員団と道庁との交渉の前段の交渉で、毎年この時期に行っています。交渉の内容は子ども医療費の助成や、国保料の減免、生活保護の支援、道立病院の拡充、道路や河川の管理についてなど、地域のかかえる様々な問題を取上げていきます。

ヒロシマ高校生の絵展開催

新日本婦人の会網走支部は、7月22日・23日の二日間、ヒロシマ「高校生の絵」展を開催しました。広島・長崎に原爆が投下されて78年、国民の大半は戦争も原爆も知りません。広島基町高校の生徒が被爆者から直接その体験を聞き、描いた絵の複製20枚、網走原水協からの原爆パネル10枚、新婦人の絵手紙小組の作品が展示されました。平和の本のコーナー、折り紙やお絵かきできる場所も用意され、じっくり見ていく人、絵手紙でホッとしている人などの様子が伺えました。「昨年も絵展を見ましたが、改めて平和の大切さ、そして平和を大事に守らな



振興局の担当課と交渉する議員団

る。また、ホテル側は汚染土の一部を撤去、ボーリング調査、土壌ガス調査、地下水位状況の確認、モニタリングによる汚染の監視をしている」と回答しました。



高校生の絵展の様子（エコセンター）

維新の会の馬場代表が インターネット番組で「共産党は日本から無く

なったほうがいい政党」などと驚くべき発言しました。日本共産党の小池書記局長は「民主主義を根本から否定する暴論だ」と批判しました。また、「政党の政策に批判や論争する権利はどの党にもあるが『日本から無くなったらい』と存在そのものを否定することは民主主義の否定だ」と批判。その上で「お互いの意見に違いがあってもお互いの発言は、それぞれ尊重するのが民主主義だ」と指摘しました。
また、馬場氏が「第1自民党と第2自民党が改革を競い合うことが、政治をよくしていく」として、維新の存在を「第2自民党」と自身で認める発言をしたことにも触れ「維新は自民党政治を変えるつもりがないということを確認した。『自民党馬場派』であることを認めたことになる」と厳しく批判しました。
これまでの維新の議員の言動や行動を見ると、自民党より右寄りな維新の政治の恐ろしさを感じます。

9条の破壊 許さない!

「ストップ戦争法網走の会」は、22日定例の街頭宣伝を行いました。主催者の山本代表は冒頭、「政府は平和、いのち、くらしを壊す大軍拡、大増税をしようとしている。他国に直接の脅威を与え、先制攻撃も可能な敵基地攻撃能力を持つ」として、岸田政権を厳しく批判しました。
全日本年金者組合の大西一興書記長は「軍事費の拡大、年金削減と腹の立つことばかり。政治をかえよう」と、新日本婦人の会の弦巻富美恵会長は憲法25条を引用しながら「現実を安心



声をあげて政治を変えよう!

流水

7月22日は網走の花火大会でした。秋田大曲の花火師たちが打ち上げた花火は7千発。夏の夜の素晴らしい思い出になりました。今週の赤旗日曜版にちぎり絵貼り絵の裸の大将、山下清の記事がありました。新潟県長岡市の花火大会の貼り絵はみなさんどこかで目に触れている事でしょう。それほど大きな絵ではないのですが、それは夏の夜の壮大な花火が描かれています。彼は徴兵検査を逃れるために、養護施設から抜け出して放浪生活を始めます。「戦争というものは一番にこわいもので一番大事なものは命で：戦争よりつらいものはない」「みんなが爆弾なんか作らないで、きれいな花火ばかりつくっていたら、きつと戦争なんて起きなかつたんだな」。彼の言葉はそのまま心に落ちます▼花火も爆弾も同じ火薬でできているとは考えたことがなかったです。いつまでも花火を見て楽しむ世の中であることを願わずにいられませんか。直ちゃん



直ちゃん